



# 伊藤幼稚園だより

令和7年2月28日  
品川区立伊藤幼稚園  
園長 齊藤 直彦

## 伊藤幼稚園 最後の修了児に思いを寄せて

園長 齊藤直彦

歩 歩 歩 歩  
 け け け け  
 歩 歩 歩 歩  
 け け け け  
 歩 歩 歩 歩  
 け け け け  
 進 進 進 進  
 め め め め  
 進 進 進 進  
 め め め め  
 進 進 進 進  
 め め め め

虹のふもとで  
 笑顔で待ってる君がいる  
 飛び越えてゆこう  
 ぼよよくん高く  
 ほら あの雲まで  
 手が届きそう  
 飛び上がってみよう  
 ぼよよくん空へ



今こそ！  
 びゅーらーりらーり  
 風が君を呼んでいるよ  
 びゅーらーりらーり  
 その時を待つのさ

「今だ！スタンバイ！OK！」  
 押しつぶされそうなの そんな時だって  
 ぐっ！と ひざっ小僧に勇気をため

君の足のその下には  
 ととてもとても丈夫な「ばね」がついてる  
 んだぜ  
 知ってた？

ぼよよん行進曲  
 作詞：中西圭三、田角有里  
 作曲：中西圭三

早いもので3月、伊藤幼稚園で過ごす日もあとわずかになりました。この2年を振り返ると、本当にたくさんの出来事があった、子どもたちとの思い出が昨日のように浮かんできます。この2年間、子どもたちにとって、幼稚園での生活はどうだったのでしょうか。

りす組のときは、初めての幼稚園。二人だけということもあり、個の世界の中で過ごすことが多かった1学期。でも少しずつ、遊びの中で先生や友達と関わることの楽しさを知りました。2学期以降は、自立心や好奇心が伸びてきて、先生たちは子どもたちが主体的に物事に取り組める環境を大切にしてきました。ただ、成長に伴って子どもたちができることが増え、やりたいことなども明確になる一方で、すべてがうまくいくわけではないというギャップを感じて臆病になっていた時期でもありました。だからこそ、二人の考えや行動を尊重し、間違いがあれば「なぜそうなったのか」「どうやったらうまくいくのか」を一緒になって考えてきました。

しか組では、りす組のときよりも周囲の物事に対して興味や関心が強まり、その中で遊びの役割を決めたり、手順を考えたりするようになりました。それに伴い、相談する場面が増えました。二人という環境の中でその力を伸ばすために、先生が子ども役となり、あえて、わがママを主張しました。二人の子どもたちと真剣に張り合う先生たちの姿は、園長としてはとても微笑ましく、興味深かったです。2学期後半からは、生活発表会や展覧会などを通して、二人が相談してアイデアを出し合い、自分の考えを主張し、でも最後は譲り合って物事を決定していく姿が見られ、本当に成長を感じました。校長の立場から、もう十分に小学生になる準備が整ったと思います。

さて、「ぼよよん行進曲」にあるように、いよいよ小学校へジャンプする時がきました。二人の足についた、とてもとても丈夫な「ばね」は、片方が幼稚園で培ったもの、もう片方がご家庭で築いていただいたもの。ひざっ小僧に勇気をため、空高く飛び上がってほしいです。飛び越えた虹のふもとには、きっとすてきな笑顔の、小学生になったゆうくん・けいちゃんが待っています。

今回で、伊藤幼稚園だよりも最終号となりました。まずは、閉園と分かっていたながらも大切なお子さんを本園にお預けいただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。二人に出会えたことを本当に嬉しく思います。そして、これまでの長きに渡り伊藤幼稚園を愛してくださった修了生とその保護者、地域の皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。最後に、伊藤幼稚園で保育に関わってきたすばらしい教職員を誇りに思い、感謝の気持ちでいっぱいです。





## 伊藤幼稚園 3月のねらい



### < 5歳児 しか組 >

- 友達と一緒に遊びや生活を進めていく中で、自分の良さを発揮したり、友達の良さを受け入れたりして、充実感を味わう。
- 自分たちの成長を実感し、自信をもって修了に向けて取組んだり、就学への期待をもって行動したりする。
- 陽射しの温かさや気温の変化、身近な動植物の様子などに関心をもち、触れたり考えたりして楽しむ。



### いとうトピックス

いよいよ最後の「いとうトピックス」となりました。昨年同様、この時期の園庭では梅の花が満開になり、メジロやムクドリが花の蜜の香りに誘われてたくさん訪れています。また、園内に入ると、ひな飾りと一緒に飾られている桃の花がとても良い香りで、春の訪れを知らせてくれているようです。

さて先日、伊藤幼稚園を修了した伊藤小学校の児童が遊戯室に集まってくれました。閉園する前に、一緒に園歌を歌いたいことを伝えると、その日に登校していた元園児がみんな来てくれたように思います。園を懐かしみ、思いを込めて歌ってくれたみんなの歌声を聴くと、残り1ヶ月で閉園することを寂しく思う気持ちと、またそれ以上に、園を大事に思い、集まってくれた一人一人の想いが嬉しく、感慨深い気持ちになりました。

みんなの心の中に、園歌とともに、いつまでも幼稚園の思い出が残っていくことを願っています。

(文：坂井)

